

高校生県議会からの意見書提出・採決

「過疎地域における Society5.0 時代の医療施策の推進を求める意見書(案)」が、岩国・柳井地域から提案され、全員異議なく、原案のとおり知事に提出することとした。

提案地域	岩国・柳井地域
議員氏名	木崎 祐子 松坂 乃亞 上重 歩優 立場 春妃 藤本 都香 今田 陽菜 関川 真緒 寺本 光来 安達 早良 田中 隆貴
代表提案者	岩国高等学校 2年 松坂 乃亞

過疎地域における Society5.0 時代の医療施策の推進を求める意見書

現在、山口県は人口減少に歯止めがかからず、全国的に見ても高齢者人口の占める割合が高い県となっています。さらに現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、散在する過疎地域では、さまざまなリスクが高まっています。特に高齢者のそれは深刻です。たとえば、市の中心から遠隔地に在住する高齢者が、診察のために医療機関を訪れるための移動手段の確保が困難なこと、また、医療機関での感染のリスク等、問題は山積しています。

このように新型コロナウイルス感染症の例を見ても明らかなように、高齢化が進む山口県においては過疎地域への医療面を中心に対応が急がれる状況におかれています。

そこで、私たちは Society5.0 の施策の推進がこれらの課題解決の1つではないかと考えています。Society5.0 とは、必要な物・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応し、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、快適な生活を送れる社会のことです。これを利用することによって病院からのネットワークを介してテレビ電話などを用いた遠隔診断や遠隔治療、ドローンでの医薬品、支援物資の輸送などができるようになると推測できます。これにより、過疎地域の高齢者の方々の医療機関、医療スタッフの不足などの不安感を少しでも軽減できると考えます。しかし、山口県の現状は、過疎地域でネットワーク環境の整備が遅れていたり、専門的な治療が必要な人のところに訪問する医療スタッフ、特に若い世代の医療スタッフが不足しています。

そこで私たちは、高齢化が進む山口県において、高齢者のみなさんの不安を少しでも取り除くために、過疎地域や医療施設が少ない地域での Society5.0 の実現を目指したネットワーク環境の整備、ネットワークを活用しての医療スタッフの対応できるシステムを築くことを提案します。

令和3年1月

山口県知事 村岡 嗣政 様

第6回やまぐち高校生県議会 議員一同